



## 羅針盤のない航路はあり得ない



組織や運動は生命体のようなもので、千変万化する客観的情勢と自らが持つ主体的条件の相互作用により、一瞬たりとも同じところに立ち止ることなく常に変化し続けています。職場、生活のあらゆる面で労働者としてのものの見方、考え方にこだわるのが労働運動の原点です。

新型コロナウイルスによる2020年当初から現在まで続く情勢は世界を震撼させ、これまでの社会生活の変容を迫りながら人との関わりや個人の生き方にまで大きな影響を及ぼしています。同時に労働組合をはじめとするさまざまな運動形態にも変化が生じることとなりました。見失ってはならないものは、ウイルスの解明と対策は科学と医療に委ねるべきもので、そこに観念的な虚勢や

畏怖が支配しないよう差別や人権侵害などの排他主義を許さないこと、この情勢と条件のなかでいかに主体的な運動を構築するかという点です。

労働組合組織率が低下の一途ですが、未組織の労働者が増えることで得られるものはありません。格差と貧困の増大、革新政党の弱体化による保守政治の腐敗、憲法と平和の破壊、労働現場での過労やパワハラ、利益第一主義の過重ノルマなど職場に労働組合の存在がなくなるのと比例して労働者には人間らしく生き、働き続けられる条件も奪われます。

大海原のなかで羅針盤のない航路などあり得ないように、労働者が主人公の社会を作るためには、意志統一された方針なくして日々の運動はないのです。